

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 28 年度

事業所番号	2790900084		
法人名	社会福祉法人 香西会		
事業所名	グループホームティアラ		
所在地	大阪府高槻市大冠町二丁目19番1号		
自己評価作成日	平成 29年 1月 25日	評価結果市町村受理日	平成 29年 3月 21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&JigyosyoCd=2790900084-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 29年 2月 22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

高槻市のなかでも閑静な田園地域に位置し、広い窓からは四季折々の風景を眺めることができます。大きな窓やテラスを活用して花鳥風月をご利用者様とともに楽しんでおります。犬の散歩時だけでなく職員の出勤・退勤時には地域の方から声をかけて頂けるようになり、地域とのつながりが深まっている事を感じています。定期的に来て下さるボランティアさんも増えご利用者さまの楽しみの多様化が図れています。小規模多機能のご利用者様とも交流する場を設け、画一的にならないよう工夫しております。ご家族様の面会機会も多く、ケアプランにもご家族様やご本人の意向を十分に反映させることができている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3カ所の特別養護老人ホームと通所介護・居宅介護支援の事業所を運営する社会福祉法人が、地域に密着したサービスで認知症高齢者がその人らしく生活できる場所を作りたいと、小規模多機能型居宅介護事業所を併設して設立し、9年目を迎えます。ホームは近隣に民家や畑のある田園風景に囲まれた、静かなに環境に立地しています。法人理念・ティアラの理念と共に、平成29年度の訓(目標)は「礼儀と感謝」として、職員に周知して実践に活かすことに努めています。地域の人々とのあたたかい交流を図り、陽だまりの「縁側」のようなホームを目指しています。管理者は法人のバックアップを得て、サービス向上を図りながら運営管理を行っています。職員は利用者から家族のように安心して頼ってもらえる関係作りの構築をしながら、利用者第一のケアを心がけています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業開始前に、職員同士で話しあい作成した理念を掲げ、見やすい場所に掲示して常に共有を図っています。また、新人研修時に理念に対する理解度確認を行い、常に意識を持てるようにしています。毎年実施する基礎研修では、法人の理念とともにティアラの理念を再確認し、実施とのリンクを振り返っています。	法人理念として「香西会は 今新しい出会いを求めて 感動を与える施設、癒しの施設 わがまま施設 そして自立 そして支援」、ティアラの理念は「あなたが主役の生き生き生活 家族と歩む安心ケア 誰もがくつろげるほのぼの縁側」と定めています。また、平成29年度の訓(目標)は「礼儀と感謝」として、職員がいつでも見て認識ができるように掲げ、新人研修や基礎研修での確認により周知を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の方とは気軽に挨拶を交わすほど日常的にはかれています。地域とティアラがお互いのイベントに気軽に参加できる関係を作っています。また、毎週一回地域のごみ拾いを行っており、微力ながら少しでも地域に貢献できることを目指しております。	自治会長より地域の行事の案内や情報提供を受け、利用者は老人会のカラオケ大会や地域の運動会のパン食い競争など地域の活動に参加しています。ティアラでの毎年恒例の餅つきには地域の方も参加して利用者の楽しみになっています。地域のごみ拾いに利用者と散歩を兼ねて参加して、地域の一員として認識してもらえています。地域から、アロママッサージ、バルーンリハビリ、押し花クラフト、音楽療法、フラワーアレンジメントのボランティアの訪問があり、利用者は希望するものに参加しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	週に一回、地域の清掃には職員と参加しています。施設前の公園掃除には、お声かけしながらできる限り利用者様と共に参加するよう心がけています。クリスマスのイルミネーションも暗い夜道を明るく照らしました。犬の散歩も地域の方々のかけ橋になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では自治会長・民生委員・地域包括支援センター職員、利用者及びその家族の参加が得られており、地域と利用者の関係づくりに約立っています。初詣近区の神社に行くお話をしたら、大冠地域では昔から須賀神社に行き道祖神社に行くのが慣例であると自治会長よりお話をいただき利用者さまとともに須賀神社、道祖神社に初詣に参りました。</p>	<p>運営推進会議は、自治会長、民生・児童委員、地域包括支援センター職員、利用者代表と家族の参加により、規定に基づいて、2カ月に一度開催しています。会議ではホームから、行事予定、研修、会議、事故、苦情について報告して意見や助言を得ています。地域からの情報をもらい、意見交換をして運営に反映しています。今後は会議がマンネリ化しないように参加メンバーを広げる取り組みを行う予定です。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>事業活動の中から発生した質問、疑問については常に市町村担当者に相談、確認しており市町村と足並みをそろえてニーズに対応できるようはかっています。また、骨折を伴う事故など発生した場合すみやかに報告連絡をしております。</p>	<p>市の担当課とは介護保険に関する手続きに向いた際などに、窓口で相談や情報収集をするほか、事故報告書も速やかに提出しています。介護保険給付管理に関することなどを電話で相談しています。市からの情報提供などはメールでやり取りを行うなど、日頃から連携に努めています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>「香西会は身体拘束・虐待をしないことを誓います。」と誓いの言葉を掲げ、新人教育や内部研修(基礎研修)に実施により徹底して身体拘束をしない介護に取り組んでいます。出入りに施錠せずにご利用者が自由に出入りできるようにしているため、日々の記録をミーティングなどで話し合い情報を職員間で共有し安全確保に努めています。</p>	<p>法人全体で身体拘束をしないケア、虐待防止を図り、ホームとしても研修を通じて身体拘束排除、虐待防止に取り組んでいます。日中は出入り口を施錠せず、利用者の自由な出入りを可能としており、安全に配慮しながら閉塞感のないケアを行っています。利用者の怪我の防止と安全確保のため、やむを得ず「センサーマット」「赤外線センサー」を使用しています。使用に当たっては家族に説明を行い、必要に応じて手順を踏まえた上でと考えています。用具を使用の時には理由・頻度・期間・経過などを記録に残し、利用者への精神的配慮を行いながら実施する予定です。</p>	<p>利用者の安全のための用具の使用においては、スピーチロックや行動制限が身体拘束となりうることを理解しています。今後も身体拘束をしないケアの取り組みが期待されます。</p>
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>新人教育で実施しています。また、現職員に対しても、集団研修や内部研修(基礎研修)の実施や新人教育時の講師を行う事で継続的な啓発に努めています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	平成 28 年度に地域包括の主催する会議で成年後見制度について学ぶ機会がありました。今後も市町村・地域包括支援センターで後見人制度や日常生活自立支援を学ぶ機会があれば参加させていただき、管理者やケアマネージャーから介護職員にも知識が行き渡るように内部研修なども行いたいと考えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族、利用者と契約を締結・解約する際には丁寧な説明をこころがけ、疑問点には全て答え、納得の上契約・解約を頂くようにしています。利用開始後に発生した疑問についても遠慮なく質問するよう必ず伝えていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議は利用者とその家族を固定せずに交代で参加してもらい、利用者からの意見が偏ったものにならないよう工夫しております。家族が意見を言いやすいようこまめな連絡を行い利用者ノートを作り、家族からの意見や質問が職員に周知できる体制をとり、毎日のミーティングの場でも共有するよう努めています。行事のお知らせをする際には前月のご本人の様子を書いた手紙を添付し定期的な報告を行っています。今年度は家族交流会を行い家族様間で自己紹介をしてもらい顔の見える関係づくりもさせていただきました。	家族とは来訪時にコミュニケーションを積極的に取るように努めています。利用者の近況をホームから説明し、家族からは気付き等の話を聞くようにしています。家族には情報収集箱・苦情箱に意見を記入して投函してもらえよう図っています。家族交流会も意見や要望を聞く機会になっています。得られた情報は利用者ノートに記入して職員に周知を図り、運営に活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見解や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人の全体会議を通じて管理者と開設者が意見を交換する場を設け、それをティアラ会議にて各主任に伝える双方向の仕組みをとっています。管理者は他職員との意見交換を日常的に行えるよう環境整備に努めています。日常的なケアや対話の中から、職員のアイデアを拾い開設者に相談できる体制を整えています。	管理者は職員と年に2度の面談の機会を設け、意見や要望を表出できるように図っています。日常的にコミュニケーションを多くとり、職員が何でも言える風通しの良い職場環境作りに努めています。職員は会議や各種委員会に参加して意見や提案をしています。GHノートでも申し送りや意見などが出せるようにしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>平成 24 年度よりキャリアパス制度の導入。平成 25 年度 26 年度 27 年度と目標を掲げて全員で取り組みを繰り返す中で今季は水分摂取の増加を達成。その結果、点滴をされる利用者の回数も減ったり改めて利用者の健康状態の安定に大きく寄与することがわかりました。次年度はより具体的に成果を数値化して表せるテーマを目標に掲げ全員で取り組みたいと考えています。職員が資格取得のための研修を法人の補助で受けられるように支援しています。さらに一定条件を満たす介護福祉士受験者には法人独自の勉強会に参加してもらい、同じ目標を掲げた職員同士が励ましあって資格取得に取り組める場を提供しています。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を作成し、資格取得に向けた体制をつくっており職員から行きたい研修を管理者に相談できるように常に研修の情報を職員入り口に掲示しております。管理者は全ての職員が平等に研修を受けられるように配慮しております。研修に行った職員は研修報告書を作成し内容を全ての職員に周知できる体制をとっています。来年度は研修内容を充実させたいと考えています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市町村が行う研修会やケアマネ連絡会、包括が行う地域包括ケア会議に参加しています。開設して9年目を迎えた今年度は新規にグループホームを立ち上げる事業所に施設見学行き同事業とのネットワークづくりや自施設のケアの質が評価できる取組を推進したいと考えます。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度は実績はありませんでしたが、サービス利用前に家族や担当ケアマネからの相談受付だけでなく、必ず本人と面談し家族の意向の調整を図りながら本人が納得してサービスをうけられるよう努力しています。また、ケアマネージャー以外のスタッフも面接に同行し医療管理が必要な利用者には看護師が機能訓練を要望する利用者には機能訓練指導員が面談に参加しています。収集した情報はご本人入居前の主治医にもとどけ、ご家族・ご本人が安心してグループホームでの生活を開始できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からは、本人の耳には入れたくない事情などの相談があるため、その都度個別に対応するなどの配慮をしています。ご家族と本人との信頼関係が悪化しないよう、本人への説明内容なども充分配慮しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前にご本人やご家族と面談する際には職員2人以上で面談し、その時希望している支援が何なのか多角的に質問や意見聴取ができるようにしています。ご利用前に面談した内容を職員に周知し不足している情報など挙げてもらい情報に肉付けをするようにしています。入院先からの入居の場合にはできるだけ、病院にてカンファレンスを可能な限りもうけて頂き、環境の変化に伴う移転のため、認知症への悪影響も可能性として考えられることなど、リスクも含めて相談し対応も考えた上でご入居いただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>一緒に食事をしたりレクリエーションをしたりしながら、お互いが双方向的な関係であることを意識できる空間を大切にしています。その人らしさをみつけ生活の中で役割を担ってもらおうと同時に利用者ノートの活用により職員に周知徹底できるようにしています。一人一人が持っておられる能力を発揮していただき、どんなに小さいことでも、ご本人の努力に対して感謝の気持ちを伝えるよう心がけています。</p> <p>このことを実施するため、個人個人の得意なことや好きなこと、苦手なことをリサーチし、その方にあった毎日の日課をもっていただいで共に暮らし支えあっています。手作りごはんの行事も月に一度取り入れ、これまでご利用者様が参加できなかった調理や盛り付けなどの場面でも活躍していただけるようになりました。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月一度、利用者のご様子や施設の情報などを介護職から往診時の先生のお話は看護師より記入していただきお手紙を書き近況を報告させて頂いております。また、ご家族様が来所された時には声かけを行い、現状報告と同時に家族様からの要望、利用者様の生活歴や好きなこと、好きなものなどお聞きしてケアや日課を考える上でヒントにしております。病院への受診の協力もご家族様から得られています。</p> <p>ご家族様の面会も多く、気軽に出入りしていただけるグループホームになっていると考えます。職員は常にご家族様の健康状態についても日常会話の中から情報を得て、ご家族様の体調を気遣う言葉かけをするよう心掛けています。また、電話でのやり取りができるような支援も取り入れています</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>家族には、面会や見学はいつでも可能であることを伝え、親類や友人が訪ねてきてもらえるようにしております。 個人情報保護の観点から、必ず来所された場合は、面会カードに記入してもらい、見かけない顔の方には申し訳ありませんが、どの利用者さまに訪問であるのか、ご関係などを伺っており本人さまにお会いしてもよいか確認の上お会いしていただいております。後日、家族様が来られた場合に報告させていただいております。</p>	<p>ホームには利用者の家族の来訪が多く、友人が訪ねてくることもあります。職員は、利用者が電話の利用を希望した際には、電話がかけられるように支援しています。利用者が旧知の友人に近況を知らせるはがきや、川柳の投稿のはがきを投函できるように援助して、馴染みの関係や趣味の楽しみが継続できるように支援しています。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>同じホーム内および隣接する小規模多機能の利用者様との交流を行い、フラワーアレンジメント・バルーンリハビリ教室等を催し、同じ目的をもって活動に取り組み、ともに何かを作る喜びを分かち合う支援を行っております。年間行事計画の中に合同行事を盛り込むことにより、同じ季節感をあじわいながら多数の利用者様と交流を持てるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、その後の経過を尋ねたり、相談をいただいたりといった関係を継続しています。退所後にお亡くなりになられたのとお知らせをきいた場合はできるだけ仏前に手を合わせに行かせていただき、家族と胸痛の思い出を語りあえる時間を設けています。退所後、ご家族の許可とご本人の環境が許す限り面会に伺うようにしております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	プラン更新時には、まず本人の意向を聞き反映しております。本人の意向を尊重するうえで家族様の意向・スタッフの意見・なども伺い本人・家族様の思い、専門性を持った意見などを取り入れたプランを作成。本人様、家族様に説明、確認、了承をいただくようしております。また、本人の意向だけを尊重すると危険が伴うと考えられる場合には、本人に納得できる説明を行うとともに実現のための方向性を模索しております。	職員は、利用者の希望や意向を、日々のケアの中での何気ないやり取りのなかで再確認して、新たな情報を得ています。言葉で意向の表出が難しい時にも、利用者の表情やしぐさで思いを把握するほか、家族に聞き取りをして、利用者の尊厳に配慮した意向確認をしています。得た情報はGHノートや申し送りノートに記入する他、プランに反映させて、職員に周知をして、検討を行い、利用者がその人らしい暮らしを継続できるように努めています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回アセスメント時に、本人や家族の言葉としてこれまでの暮らしを教えてください。居宅や地域包括支援センターのケアマネージャーさんからも在宅時のプランなどの情報を頂いております。また、サービスご利用中にも世間話として昔の話や趣味のことなども話題にし情報の肉付けを行っています。通院にご家族様と同行して、ご本人の歴史についてお聞きしたこともあります。得られた情報は職員に周知してケアに活かせる工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	<p>ご本人の生活のペースを把握し快適に過ごして頂けるように努めており起床時間や就寝時間は基本、ご本人のペースに合わせております。ご本人の楽しみや嗜好を探り、安全に行って頂けるよう実施場所なども全員で検討しております。利用者それぞれに役割をもっていただき、家事を分担して行っていただいております。今ではそれが日課になってきています。</p> <p>ADL低下のため、ご自分で動きにくく介助が必要になった方にも、少しでもご本人に安楽に動作をしていただくために、機能訓練士が週1回のペースでご本人のトレーニングをおこなっています。また、毎日の継続した運動が必要な方については、介護職や看護師がその方法を学び、運動を実施しております。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>会議を定期的を開くほかに担当職員が中心となって本人の意向を聞いたり家族の面会時や電話などで積極的に会話をし、家族と共に介護計画を作成しています。連絡ノートや利用者ノート、グループホーム会議の場を活用するところにより、職員同士でもアイデアや意見が言えるようにしています。ご家族参加型の行事を増やすことでご本人のグループホームでの現状をみて頂き、意見を収集して計画につなげる事ができました。</p>	<p>入居時に確認して作成したアセスメントの内容を毎年再確認して更新しています。介護計画書はカンファレンスなどで本人・家族にも意見を聞いて、サービス開始時と見直しのプランを作成しています。1ヵ月単位で介護計画書に沿ったプラン実行表を短期目標から連動させて作成して、サービスの実施状況の確認を10日ごとに行った上で、毎月総合評価をしています。介護計画書は概ね6ヵ月毎に見直しを行っており、ホームで生活する上でわかりやすい内容と、自立支援、地域との交流を位置付けて作成しています。モニタリングを3ヵ月に一度実施しています。介護計画書は利用者、家族に説明の上同意を得ています。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>申し送りや健康チェック表、利用者ノート、毎日のミーティングの場を利用しながら、会議以外でもいつでも意見や気づき、アイデアを記入することで情報を共有しています。ケアプランの実施表を設け十日ごとのプラン実施状況を記載しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>併設している小規模多機能と合同でイベントを行う事により、施設内においても「おでかけ」の感覚で小規模多機能まで出かけて楽しんでいます。ほかに、外出行事を定期的に行っています。</p> <p>糖尿病で運動が必要な方については、楽しんで続けていただけるよう、グループホームから最も遠い事務所まで大好きな本を借りるという目的を持って歩いて頂く工夫をしています。</p> <p>事例として以前利用されていた方で、食べる事が困難となり医療が必要になられた方については、ご家族様と共に受け入れ先を探し、ご本人の生活が継続できるようにしたケースもあります。</p> <p>又、、その時々歩行状態に合わせ福祉用具の必要性を機能訓練士主体で検討し、安全・安定して利用できるまで訓練を行っております。骨折、寝たきりの状態から歩けるまでに回復された方もおられます。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域からボランティアでさまざまなレクリエーションの提供に来てもらっています。「バルーンリハビリ、音楽療法、ハーモニカ、フラワーアレンジメントなど」H29年度には「折り紙」も参加して下さいます。いずれも、ボランティアさん側から申し出があり実施しております。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご利用者様の疾病、専門医による診察に応じて受診が出来るようにしています。看護職を介在させることによって医師への連携がスムーズに行えるようにしています。日常的な医療管理については、往診により受診して、いつでも相談や連携が行えるようにしています。往診前には看護師が事前にFAXをしており、スムーズな受診につなげています。他科に受診する際にも主治医に紹介状を作成していただきスムーズに受診できています。かかりつけ医とは常に連絡が取れる体制にあり、発見した異常を早期に解決することにもつながっています。</p>	<p>ホームでは、月2回ホームの主治医の往診を受けています。また、必要に応じて週1回訪問歯科の往診も受けています。体調変化があった時などは、利用者、家族の希望する医療機関へ受診しています。主治医とはいつでも連絡が取れて、看護職員との連携により、利用者の日常的な健康管理を行っています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康チェック表や申し送りを中心に、看護師と介護職員が連携をとるようにしており、少しの変化でもすぐに相談ができる体制をとることができています。また、日常のケアの中で、健康面で少しでも疑問に感じた事や異変ではないかと思ったことについては、いつでも看護師に連絡をとって指示を仰いでいます。日々しっかりと健康状態を観察し看護師の出勤日には申し送り簿、利用者ノート、医療ノート、口頭で報告が伝わるようにしています。また、往診の後にはその結果を医療ノートに記載して周知をはかっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時にはすぐに利用者の日常の状態を病院に伝えられるように、「ケア手順書・看護サマリー」を整えており、適宜見直しをしています。入院時には定期的に本人を見舞い、不安を減らす支援をするとともに、家族とも連絡をとりあい、病院内での様子や変化、退院の見通しなどについて情報を得るようにしています。また、退院前にカンファレンスを持ってもらうようMSWなどに働きかけています。カンファレンスにはできるだけ看護職も参加するようにしています。カンファレンスが不可能な場合には、必ず看護サマリーをいただいております。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合における対応に係る指針を設定しており、契約時から終末期について家族の意向を確認し書面で保存しています。本人の状態が変化した場合にはあらためて家族の意向を聴くようにしています。看護職員を配置し、かかりつけ医との連携を強化しています。医師からは「夜中でもなんでもおかしいと思ったら私に相談しなさいよ。」と声をかけていただいております。</p>	<p>入居時に「重度化した場合についての事前確認書」により、家族の意向を確認しています。利用者の状態変化が進んだ場合には、改めて話し合い、家族の意向を再確認することとしています。現在、看取りの支援は行っていませんが、今後利用者の重度化がすすみ、看取り支援の必要性が出てきたときには、主治医、職員で話し合い、支援に取り組む考えでいます。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変時や事故発生時の対応はマニュアルを設けており、研修時に理解するとともに、実践的な訓練を行っています。緊急時には隣接する小規模多機能と連携して事にあたるように教育を徹底しており、とくに夜間については新人教育時から対応の方法を繰り返し伝えて、職員にも不安がないようにしています。事故発生の場合は事故報告書を作成し、原因究明をきちんと行う事によって再発防止に努めています。</p>		
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回の消防訓練を職員、利用者参加のもと行い、避難方法や初期消火の方法を身に付けています。地域の利用者家族や民生委員とも協力して訓練をおこなっています。 平成23年3月11日の東日本大震災、平成28年4月16日の熊本地震を受け、香西会では拡大安全対策委員会を設け、大規模災害時に備えたマニュアルを整備し備蓄を確保しました。今年度はさらに災害対策を充実するために備蓄品の充実をはかりました。</p>	<p>年2回、通報、初期消火、避難訓練を実施し、1回は夜間を想定した訓練を行っています。平成28年8月に実施した避難訓練では、地域住民が避難した利用者の安全確保の役割を担当しました。法人では「大規模災害マニュアル」を作成し、職員はその縮小版を名札ケースの中に入れて常に携帯しています。現在は水害対策に取り組み、市の情報等を収集しています。災害時の備蓄は水や食料など3日分を準備していますが、備蓄品の内容や量などを増やしていく方向で法人と検討を始めています。</p>	<p>ホームでは、火災のみでなく大規模災害における水害の対策を急ぎの検討課題と考えています。災害時の備蓄品の保管方法や内容・量について母体法人と検討の予定です。今後、取り組みの成果が期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	<p>○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>命令・強制・否定言葉の禁止は理念にも掲げており、新人研修でその重要性を学ぶとともに年2回の全職員を対象とした基礎研修でも再度徹底して人格尊重の教育を行っています。個人情報の記載された書類は必ず鍵のかかる場所に保管し、廃棄する場合はシュレッダーを通してあります。さらに業務上知りえた利用者および家族の秘密は洩らさないことを説明したうえで雇用契約を締結しており、職員の入社時研修でも教育するとともに同意書をとっています。また、介護を行う際には羞恥心に配慮して実施するよう研修などで徹底しています。</p>	<p>利用者の尊厳を守ることは法人の理念に謳われており、職員は利用者に対して、利用者を尊重した言葉遣いや対応をしています。法人が行う年2回の基礎研修でも「プライバシーの尊重と礼儀」について全職員が学んでいます。特に入浴や排泄時には利用者の羞恥心に配慮した支援を行うことを徹底しており、業務マニュアルにも明記しています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>今日着たい服や今したいことといった日常生活の細かい部分にも、本人の意向を反映するようにしています。例えば、お風呂の準備はできるだけご本人にさせていただき、下着や服などを選んでいただき、職員が確認するようにしております。行事で外食を食べるときには写真つきメニューを用意して、ご本人の「わかる力」を活かして自己決定できる工夫をしています。したいことを防げない声掛けの工夫は常におこなっています。朝はゆっくりと起きる方には遅い時間を融通しています。自己決定と安全・健康のバランスがとれるように配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床時間や就寝時間などは、ご本人の生活ペースを尊重しています。例えば朝起きるのが辛い日は、食事廃棄の制限時間までゆっくりと休んでいただき一日が気持ちよく過ごして頂けるよう配慮しています。ご本人の希望を優先する努力をしていますが、こちらの都合で予定を変更する場合や利用者のその時の気持ちに合わないことに対しては、本人の事前の納得が得られるよう十分な説明を行っています。読書が趣味で、本に夢中になり就寝が遅くなりがちな方には時間を告知したり明日の予定をお伝えすることで就寝していただけるよう配慮しています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの暮らしの情報を把握したことにより、その時々状況にあった服を選んだり、本人がおしゃれ道具や服を使いやすい配置にしたり、いつでもおしゃれが楽しめるように配慮しています。また、家族には事前に行事や本人のおしゃれや整容に対する意向を伝え家族と共に準備ができるようにしています。行きたい店でカットやパーマができるよう支援したり、あしの不自由な利用者が毛染めできるよう手配したりといった実践を行いました。整容のチェック表を新設し、「爪切り・耳掃除・髭剃りなど」の間隔が空きすぎないよう工夫ができました。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力に応じ、「おしぼりの準備・机ふき・食器、おぼん拭き、後片付けなど」に関わってもらうようにしており職員が確認をするようにしています。食べる事が苦痛にならないよう、本人のペースで食べて頂き、食べやすい食事形態や食器の工夫を行っています。食の細かい方にはおにぎりをにぎったり、ふりかけをかけてみたり、盛り付けを工夫したりと食事が楽しくなるようにしています。又、行事にて月に一度の手作り料理の日を設け月ごとに利用者様、職員で担当を決め、できる限り食べたいメニュー、買い物、下準備、調理、食事まで一緒にご参加していただける工夫もしております。ご自分で作った料理はいつもより食が進むようです。	献立と調理済み食材が給食業者から届けられています。ごはんとお味噌汁はホームで作っています。利用者はおしぼり作りや盛り付けなど、できることを手伝っています。ホームでは、食事では何よりも五感を刺激することを大切にして、調理する匂いやご飯の炊ける音などを利用者を感じてもらっています。毎月1回は「手作りごはんの会」を企画して、利用者の食べたいものなどを味わってもらっています。利用者の希望するメニューにそって買い物から調理まで利用者と一緒にいき、好評を得ています。また外出行事など際には、行先でのお弁当や回転ずし、大型スーパー内のフードコートなどでの外食を楽しんでいます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全ての利用者様について食札などに食事形態や制限を記載し、誰がどのような形で摂取するかがわかるようにしています。できるだけ安全に美味しく食べていただけるよう日々観察を行い、看護師や医師、家族様と相談しながら食事形態を変更しております。水分も含め、食事摂取量は一覧できる記録表に残しています。とくに水分摂取量には気を付けており、昨年度の点滴回数が今年度は点滴回数をしたまわる事例もありました。又、夜間時に水分補給ができるように専用ボトルをご用意してお茶を入れいつでも飲めるよう提供しております。こまめに清掃・新品のお茶と交換対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の利用者に応じて、できるだけ本人の力を活かして食後に口腔ケアが行えるようにしています。義歯ケースをどこに収納して分からなくなるご利用者様には、食事直後に義歯を外していただいで預かるなど、かむことに不自由が出ないように工夫しています。希望者には訪問歯科診療が受けられるように手配しております。口腔ケアについては、歯科医より適宜アドバイスをもらうことができます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	健康チェック表を活用し、日中夜間の状態に配慮し、かつ本人の身体的・精神的負担を考慮し、本人にふさわしい排泄の方法を家族とともに選定しています。排泄一部介助の方については立位、移乗、後始末など、ご本人ができることは可能な限りがんばっていただくようにしています。トイレ時間が長い方やトイレ内で眠ってしまう方、トイレで転倒したことのある方については、常に声掛けを行って内部での安全確保に努めています。また、オムツ利用の方については、その方の排泄量や睡眠状態に応じて、吸収量の違うパッドをご家族様と相談の上で用意していただき対応しております。	利用者の排泄のパターンや状況は、健康チェック表や排泄表の記録から把握を行い、適切な排せつ介助ができるようにしています。可能な限りトイレでの排泄ができるように、排泄のタイミングや方法、清潔保持に配慮しています。現在、布パンツ、リハビリパンツ、パッドの使用については、利用者一人ひとりの状態に合わせて選び、不快感の無いように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師や機能訓練士と連携をとりながら、運動や水分補給を促し、便秘の予防に努めています。排便リズムは健康チェック表に記載して全職員が共有しています。排便リズムは健康チェック表に記載して全職員が共有しています。看護職員が排便の無い期間を常にチェックし、三日間便秘が継続している時点で医師と相談して排便ができるよう、投薬や摘便の指示をうけています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	気の合う利用者同士が同じ時間に入浴できる配慮を行っています。一方で入浴が高齢者にとって体力を消耗するものであることを全員が理解し事前のバイタルチェックを欠かさないようにして、血圧や体温に異常がある場合は看護師の判断により清拭や入浴を中止する場合があります。	入浴は週に3回を基本としており、事前にバイタルチェックを行い入浴に問題が無いかどうかの確認を行った上で、入浴を楽しめるようにしています。利用者の体調や気分に合わせて予定外でも入浴できたり、シャワー浴や清拭に変更して清潔を保持できるように支援しています。利用者の体調や状態により、併設の小規模多機能ホームのリフト浴の利用も可能で、時には小規模多機能ホームの大浴室に小規模ホームの利用者と交流しながら入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の疲れの程度や体力、本人からの希望に応じて、日中にも時間を決めて臥床し、休息してもらえるようにしています。前日の睡眠時間も考慮に入れながら臥床する時間の長さを決めています。夜間眠れない場合や傾眠が強い場合には、主治医にも相談できる体制ができています。布団対応にするか、ベッドをご利用になるか、抱き枕が必要かなど寝具についても家族と共に考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>利用開始時に服薬説明書を提供してもらい、薬の目的や副作用、用法、用量について看護師を中心として全員が理解するよう努めています。処方箋と照合しながら配薬は看護師の手で確実にを行い介護職員はシフトによって服薬に関する役割を決め、必ず提供までに二人以上の職員でチェックできるように配慮しており、服薬チェック表で確実に服薬ができる支援をおこなっています。帰宅時には、専用の巾着袋に必要な分の薬を準備し、確実に持ち帰って服用して頂けるようにしています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>それぞれの利用者の能力に応じ、できる家事を割り振って毎日の日課として行ってもらっています。洗濯たたみ、洗濯干し、食器・お盆拭き、おしぼり巻はご利用者様の日課となっており「まだ、洗濯乾かんの？」と積極的に取り組んで頂いております。又、ぬり絵に一生懸命取り組んでいただいたり、ハーモニカ演奏をしてくださり皆さんで歌う事もあります。特に毎月制作のカレンダーはぬり絵・ちぎり絵とその月に応じて変えますがイラストに色を付けることを楽しみにされている方が多く、毎月出来上がった作品を一ヶ月間掲示し成果としても楽しんで頂いています。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>天気や気候、ご本人の体調をみながら、近くの公園や堤防、ポストに郵便物投函などにいつでも散歩できるよう支援しています。又、地域のごみ拾い等に参加して下さったり出かけています。職員が行う買い物の際に、利用者様に同行を促し、街並みや商店の雰囲気を楽しんでもらっています。地域にあるカフェでお誕生日会を実施しいつもと違った雰囲気を楽しんで頂くことができました。</p>	<p>ホームでは年間行事計画を立てて、花見・秋のドライブ、バスツアー、買い物ツアーなどに出かけています。散歩を兼ねてポストにはがきを投函したり、近くの堤防で行われるハーフマラソンの走者の応援やスーパーへの買い物に出かけています。利用者の体調と季節による天気や気温に配慮して出かけるようにしていますが、気候により日常的な散歩が少ない傾向にあります。</p>	<p>外出が難しいと思われる時に、利用者の体調や希望を考慮した支援の取り組みが期待されます。</p>

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>本人・家族様と相談の上、可能な方に対しては自己管理で願っております。自己管理が困難な方については、限度額を聞いておき、領収書をもって対応しております。行事の際のお小遣いや小銭は出来る限りご本人にもっていただくようにしています。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>個々の要望があれば対応するようにしています。本人ができる部分を見極めて、最少の援助を行うように心がけています。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物自体民家風にし、内部は木のあたたかみを感じられる空間としています。季節ごとに飾り付けを変え季節感が伝わるよう工夫しています。飾りつけの作成には、ご利用者様に参加していただき、つくる段階から季節感を味わっていただけるようにしています。利用者の行事などの写真を掲出し親しみが持てるよう工夫しています。共有スペースにはソファを設け、それぞれが好きな場所で好きなことを過ごせる空間の演出もしています。小規模多機能ホームを以前ご利用になり、小規模との利用者となじみの関係がある方には、好きな時間に小規模を訪問できるよう工夫をしています。フロアは日差しがよく入る明るい空間ですが、時としてまぶしさや暑さの原因になるため、ご利用者様の了解を得ながらカーテンにより光や温度が調整できるよう工夫しています。	1ユニットのホームは平屋の建物で、天井が高く広く明るい居間が中心にあり、食堂を兼ねたテーブルやソファがゆったりと配置されて、利用者が日中、塗り絵など好きなことをして過ごせる場所になっています。壁には利用者が職員と一緒に創った季節を感じられる貼り絵が飾られ、外出した際の利用者の楽しそうな写真も飾られています。居間の周りに利用者の居室が配置されています。居間の一部は対面キッチンで、利用者がカウンターテーブルで食事の盛り付けを手伝ったり、おしぼりの準備がしやすいように造られています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂兼居間の中でも、自分の席、ソファ、台所、職員詰所、上記の各コーナーなど、自分が居たい場所に自由に移動してもらっています。それぞれにお気に入りの場所を確保して過ごして頂いています。広間の中での席順は他のご利用者様との関係性を見ながら、お互いが不快にならないように配慮して決めます。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時には、早くなじめるように、長年愛用した家具の搬入などお願いしています。個人の愛用品やなじみの品はその都度持って来て頂けるようにしています。ティアラにいられてからの写真はアルバムに整理し、いつでも思い出を振り返ることができるようにしています。ぬいぐるみやお人形が大好きなご利用者様には、危険の無い範囲で好きなだけ飾っていただけるようにしています。愛用の家具を設置したところ、その上に登るなどの危険行為があった利用者様については家族様と相談して家具の種類を考えるとともに、何故上に登るのかを解析して、危険行為を行われないように工夫したケースもあります。</p>	<p>居間の周りを囲むように配置された居室には、それぞれに宝石の名前が付けられ、カーテンの色も部屋ごとに違います。入り口には暖簾が掛かり、識別しやすくなっています。居室の窓は大きく明るく、洗面台があり、大きなクローゼットには大容量の収納が可能です。部屋をすっきり使う事ができます。利用者はテレビや机、使い慣れた調度品、ぬいぐるみなどを持ち込んで、一人ひとりが好みに合わせて思いのままに部屋の模様替えをして、落ち着いて過ごせる空間になっています。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>居室掃除を共におこなうことにより、安全性を確かめながら居心地の良い空間をつくりだしています。居室やトイレが分からなくなる方については、名札やトイレの表示を大きく書き出し、本人が安心して使えるようにしています。ベッドが馴染めないご利用者さまには布団対応をしつつ、立ち上がりの能力や危険性を配慮し、立ち上がり用の手すりを設置した事例もあります。</p>		